

北海道大学交響楽団

OB 楽友会管弦楽団

第 44 回演奏会



2019 年 8 月 17 日 (土)

開演 15:00

於：北海道大学クラーク会館講堂

— プログラム —

サン＝サーンス / 歌劇「サムソンとデリラ」よりバッカナール



川越 守 / 狂詩曲第 4 番

～休憩～

ブラームス / 交響曲第 2 番二長調

— ご挨拶 —

北大交響楽団顧問 OB 会相談役 奥 聡 (S60 年卒, Trb)

北大交響楽団は 2017 年 12 月にその大黒柱であった川越守先生を失いました。毎年 8 月のお盆の前後に行われておりました「北海道大学交響楽団 OB 楽友会管弦楽団」(通称「OB オケ」)による演奏会を、昨年は「川越守先生追悼演奏会」として開催しました。その後、川越先生亡き後も、広い世代にまたがる OB が「帰ってくる」場所としての OB 会・OB オケの活動は続けて行こうという声を、さまざまな方面からをいただき、今年 OB オケの再スタートの年となります。「継続は力なり」(川越語録)の言葉を胸に、これからの OB オケの在り方の一つとして、川越作品を継続的に取り上げて行こうという方向で動き始めました。(北大交響楽団及び OB 会では、川越先生を「永久名誉指揮者」としておいります)。北大オケのために川越先生が残してくれた管弦楽作品は 107 曲。北大オケ OB 会としては、これまで再演されたことのない作品の掘り起こしと継続的な演奏をこれからの一つの使命と考えております。西ヨーロッパ中心であったクラシック音楽に、19 世紀の中頃、北欧や東欧・ロシアから「その国・その地域」の民族主義的音楽が次々と生まれ始め、現在「クラシック音楽」のレパートリーとなっているものも多くあります。川越先生は「北海道の・日本の」管弦楽音楽づくりを生涯の課題としておられました。「ないものは自分たちの手で作って行こう」と挑戦を続けてきたのです。その遺産を継承し普及していくことが私たち OB の大切な使命であると思っております。今回は 2000 年 5 月に作曲された「狂詩曲第 4 番」を初めて再演します。ブラームス、サン＝サーンスも含め、ごゆっくりとお楽しみいただければ幸いです。